

まほらいな市民大学の様子

令和6年6月2日（日）

郷土芸能シリーズ 古田人形芝居 公演

『 傾城阿波鳴門 順礼歌の段 』

古田人形芝居保存会 会長 柴 登巳夫 氏



今回の郷土芸能シリーズは、古田人形芝居保存会の皆さんによる公演でした。

古田人形芝居は箕輪町上古田を中心に安永年間(1772 年頃)から伝承されています。明治になり低迷の時期がありましたが、大正 13(1924)年に上古田に保存組織ができ、戦後古田人形芝居として活動を活発化させてきました。平成 10(1998)年には、オーストリアのウィーンやリンツにおいてヨーロッパ公演も成功させています。

はじめに柴登巳夫会長から『古田人形芝居の歴史と伝統継承への思い』の話があり、箕輪中学校、箕輪西小学校で古田人形クラブの指導もされ、地域で長く受け継いでいけるよう努力されていることが紹介されました。そして『人形遣い』の話では、3 人で一つの人形を操り、手や足の動き、表情や仕草を絶妙に演じていることがわかりました。『傾城阿波鳴門 順礼歌の段』の公演では、細かな人形の動きと感情表現が一体となり、人形遣い 3 人の息の合った動き、太夫の語りと三味線の繊細な演奏で、三位一体となり人形がまるで生きているかのように感じました。熱演に観衆は魅了されました。

学生からは、「初めて古田人形を見て細かい一つ一つの仕草に感動し、すっかり世界に引き込まれ堪能しました。」「語りと三味線に日本そのものを感じ、300 年も引き継がれた深い伝統を鑑賞させていただきました。」「300 年を契機に伝統を受け継ぎ、これからもがんばってほしい。」といった感想がありました。